

令和5年度 第64回宮崎県学校体育研究発表大会串間・日南地区大会 研究計画

1 宮崎県の研究主題 (R5～7年度)

**生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを
実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習
～児童一人一人の思考力・判断力・表現力等を養う授業の創造と展開～**

2 主題の設定理由

(1) 新学習指導要領の趣旨

新学習指導要領の改訂では、「生きる力」について「①何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識・技能』の習得）」、「②理解していること、できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、「③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の3つの柱に整理され、育成を目指す資質・能力を明確化した。

その中で、体育科の基本的な考え方としては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、体育や保健の見方・考え方を働かせた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を育成することを目標として示している。

その達成のために、学習過程については、これまでの自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を引き続き重視するとともに、3つの資質・能力を確実に身につけるために、その関係性を重視した学習過程を工夫する必要があるとしている。

また、指導内容については、育成を目指す資質・能力の3つの柱に沿って示すこととし、体育及び保健において小学校、中学校、高等学校を通じて系統性がある指導ができるよう示す必要があるとしている。

さらには、運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無にも関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有し、卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して改善を図ることとしている。

(2) 宮崎県の児童生徒の実態

令和4年度の宮崎県体力・運動能力、生活習慣等調査では、前年度に比べて全ての校種の多くの学年で体力合計点が低下している。体力合計点は、令和元年度から連続して低下している。

県の課題である「握力」については、全ての校種において、ここ数年ほぼ横ばいの状況が続いているが、「シャトルラン」、「ボール投げ」は、年々低下している状況である。

また、全ての校種において、令和元年度の前後を境に「50M走」の低下が見られるが、「長座体前屈」は年々向上している結果となっている。

アンケートによる調査結果からは、全ての校種で外遊びや運動・スポーツを行う活動時間の減少とともに、スマートフォンやテレビ等の視聴時間といったスクリーンタイムの増加により、年々、身体活動が低下している状況が見られる。

本県児童生徒の体育授業の愛好度については、「大変好き」「好き」と回答した児童生徒の割合が、小学校で85.7%、中学校が92.0%、高等学校が91.6%となっており、体育授業が楽しい好きと感じる児童生徒が多い状況である。

(3) 宮崎県学校体育研究会が進める研究

本県では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童・生徒を育てるための具体的な実践を行っている。

そこで、令和5～7年度は「ゲーム、ボール運動：ネット型」領域において研究を深め、小中高特による「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指す。

『つながりのある学習』における、“つながり”は、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化・明確化された学習内容を、「どのように学ばせるのか」について学校段階等間の接続の中で計画的、かつ継続的に行うことにより、学習内容の定着を図っていくことを目的としている。

(4) 研究を進めるにあたって

小中高特の「つながりのある学習」を展開する中で、体育科・保健体育科が育成を目指す3つの資質・能力を児童・生徒が身に付けるために、以下の基本方針により研究を進めることとする。

① 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

- ・ 発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で身に付けさせたい具体的な内容の系統性を踏まえた指導内容の一層の充実を図る。
- ・ 指導の改善及び児童生徒の学習意欲の向上を図るとともに、個別最適な学びを実現するために、指導と評価の一体化を図る。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

- ・ 課題解決のための言語活動の充実や情報活用能力の育成、体験を伴う活動の充実などにより学習活動の質の向上を目指す。

③ 共生の視点に立った指導内容の充実

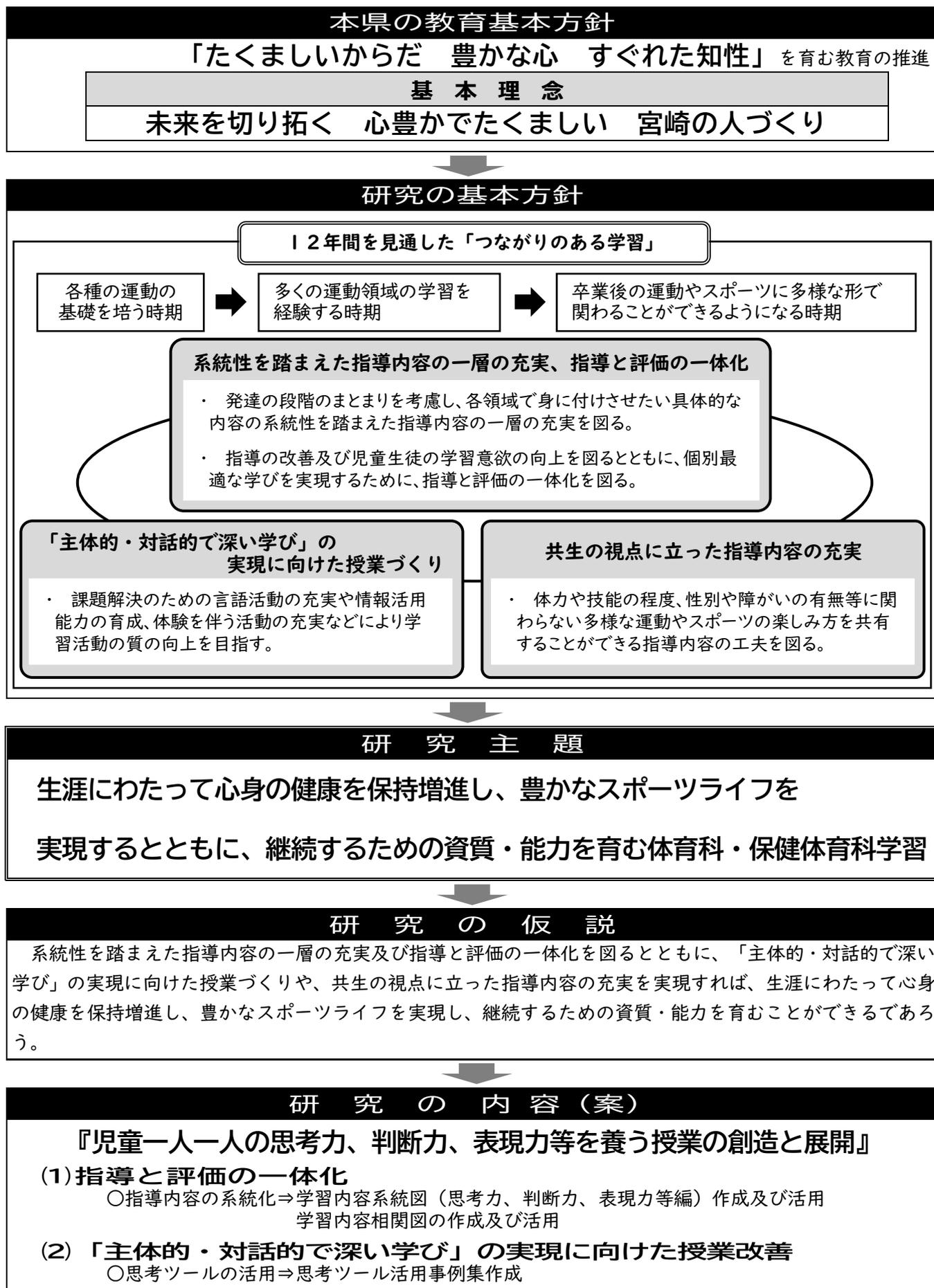
- ・ 体力や技能の程度、性別や障がいの有無に関わらない多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫を図る。

また、主題を「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」と設定し、体育や保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標とし、多角的な視点での研究を進めることとする。

(5) 研究の仮説

系統性を踏まえた指導内容の一層の充実及び指導と評価の一体化を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりや、共生の視点に立った指導内容の充実を実現すれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育むことができるであろう。

3 研究の概要（研究構想図）



4 研究計画

月	内 容	備 考
6	研究方針検討（主題・設定の理由・構想・計画） 学体研発表大会小学校部会における日程、分担等検討	県研究部会・運営委員会
7	学体研発表大会における研究の検討	日南・串間地区体連
8	学体研発表大会小学校部会の指導案検討 ポスターセッション等研究発表準備（川南小：徳原教諭） （東臼杵小体連）	県専門部会（県研究部会）
9	指導案、研究紀要（案）承認	県研究部会・運営委員会
10	研究発表準備 学校体育研究発表大会事前授業研究会（10月6日（金）） ※九州学体研研究発表準備（誌上发表：宮崎市）	日南・串間杵小体連 宮崎地区小体連
	第64回宮崎県学校体育研究発表大会（小学校部会） 10月27日（金） ※単元「ネット型：プレルボール、ソフトバレー」	全ての体連関係者
12	大会の反省	日南・串間地区体連
12	研究のまとめ（研究集録提出・作成）	各地区小体連
2	研究の取組の反省、次年度に向けて	県理事会
3	ホームページへのアップ（研究集録）周知徹底・活用	県事務局

○ 第62回九州地区学校体育研究大会

大分大会 【11月17日（金）】

○ 第62回全国学校体育研究発表会

山形大会 【11月1日（水）～11日2（木）】

第64回宮崎県学校体育研究発表大会 串間・日南地区大会開催要項（案）

R5. 4. 14 時点

1 目 的

学校体育に関する研究成果の発表と指導上の諸問題について研究協議を行い、学習指導法の改善・充実に努め、本県学校体育の進展を図る。

2 主 催

宮崎県学校体育研究会

3 共 催

宮崎県教育委員会 串間市教育委員会 日南市教育委員会

4 後 援

宮崎県市町村教育委員会連合会 宮崎県校長会 宮崎県県立学校長協会
宮崎県私立中学高等学校長会

5 主 管

第64回宮崎県学校体育研究発表大会実行委員会
串間市小学校体育連盟・日南市小学校体育連盟
南那珂地区中学校体育連盟
宮崎県高等学校体育連盟日南・串間支部
宮崎県特別支援学校教育研究会保健体育科代表者部会

6 期 日

令和5年10月27日（金）

7 参加対象

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員
教育委員会その他の関係機関・団体の学校体育関係者

8 会 場

期 日	種 別	会 場
10月27日（金）	小 学 校 部 会	串間市立大東小学校

9 研究主題

《県研究 [つながりのある学習]》（令和5～7年度）

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを
実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～児童・生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

《部会研究》

小学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
-----	--

10 日 程（※時間設定については今後決定）

10 月 27 日 （金）	小 学 校 部 会	9:10	10:00	11:00	14:40	15:45		
		8:40	9:45	10:45	11:45	12:45	14:25	15:40 16:00
		受 付	開 会 行 事 研 究 発 表 視 点 説 明	授 業 発 表 Ⅰ	授 業 発 表 Ⅱ	昼 食 休 憩 準 備	授 業 研 究	ポ ス タ ー セ ッ シ ョ ン
		(35分)	(45分)	(45分)	(100分)	(2コーナー)		
会場：串間市立大東小学校								

11 内容

(1) 小学校部会

① 研究発表・視点説明

発表題目	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～		
役職名	氏名		
研究発表者	宮崎市立宮崎東小学校	教諭	年永健二
視点説明	串間市立北方小学校	教諭	川原裕一朗

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I	第3・4学年	ゲーム 「プレルボール」	串間市立本城小学校 教諭 吉井湧人
II	第5・6学年	ゲーム 「ソフトバレーボール」	串間市立都井小学校 教諭 黒原麻由

③ ワークショップ型授業研究

役職名	氏名		
指導助言者	※未定		
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	財津吉正
司会者	宮崎市立宮崎東小学校	教諭	年永健二
記録者			
進行	日南市立吾田東小学校	教諭	日吉祐太

④ ポスターセッション

研究発表題目	発表者		
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習の在り方 ～「ゲーム・ボール運動」における主体的・対話的な授業の展開～	【東臼杵小体連】 門川町立草川小学校 教諭 岩下 明弘 門川町立門川小学校 教諭 柳田かおり		
進行・司会者	市立	小学校	教諭
記録者	市立	小学校	教諭

研究発表題目	発表者		
「アクティブ・ラーニング」による マット運動の学習プログラムの有効性 ～小学校第6学年を対象として～	川南町立川南小学校 教諭 徳原 宏樹		
進行・司会者	市立	小学校	教諭
記録者	市立	小学校	教諭

宮崎県学校体育研究発表大会の研究について 「つながりのある学習の研究」と「各部会の研究」とは？

- 宮崎県学校体育研究会とは、宮崎県の小体連、中体連、高体連、特別支援学校から構成されている組織である。12年間（小・中・高・特）の体育科、保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種間の接続や発達段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童・生徒を育てるための具体的な実践を行っている。
- 宮崎県学校体育研究発表大会とは、1973（昭和48年）から開催されており、1976（昭和51年）から、会員を一堂に集め、小・中・高等学校における公開授業（系統的授業）が発表されるようになった。現在でも、小・中・高・特のつながりを考えた研究（つながりのある学習の研究）がなされており、毎年1回、輪番（各地区の持ち回り）で研究発表大会を開催している。
- 学体研では、「つながりのある学習の研究（小・中・高・特が一体となって進める研究）」を発表する一方、各地区・各体連独自の研究（各部会の研究）についても授業発表を行ってきた。つまり、学体研では、2つの研究（『つながり』と『各部会』）を行っている。
- 令和3年度より、開催日程が毎年1日になったことで、これまで行ってきた事（各部会の授業発表、講演会、ポスターセッションなど）が時間の都合上、計画することが難しくなった。
そこで、今後は、小・中・高・特が一堂に集まって授業発表を行う『全体会の年』と各校種に分かれて授業発表を行う『各部会（小学校部会）の年』を隔年で開催することは変えないが、内容を変更して対応することとした。それぞれの年度で発表する授業は、下の表の通りである。

	全体会（小中高特合同）の年（R6.8）	各部会（小学校部会）の年（R5.7.9）
研究発表	○「つながりのある学習の研究授業」のみ ※各地区の研究は、発表できないが、翌年の九州大会で地区小体連の研究内容を発表（誌上発表または、口頭発表）	○「つながりのある学習の研究授業」 + ○「小学校部会の研究授業」
授業数	1本	2本以上

【「つながりのある学習の研究」と「各部会の研究」の進め方】

	つながりのある学習の研究の進め方 （小中高特が一体となって進める研究）	各部会の研究の進め方 （小学校独自の研究）
研究内容 研究領域	○小中高特で研究内容、領域をそろえる。 ※開催地区の小中高特の研究部で決定する。	○開催地区の小体連で研究内容、領域を検討し進める。 ※保健でもよい。
研究内容は、遅くとも開催前年の第3回準備委員会（2月）までには決定する。		
研究 テーマ	県の研究テーマにそろえる（主題はそろえる） （宮崎県学体研の研究テーマ＝九学体研の研究テーマ）	

- 「つながり」の研究内容は、開催地区の小中高特研究部で協議して決定する。
- 「各部会」の研究内容は、開催地区の小体連で協議して決定する。
- 研究内容は、遅くとも開催前年の第3回準備委員会（2月）までには決定する。
- 「つながり（小中高特合同）の研究」と「各部会（小学校部会）の研究」は、どちらも県の研究テーマ

に沿って行う。

☆ 今後の研究を進めていく上での留意事項

○令和8年度までの計画は、以下の通りである。

年度	開催方法	開催地区	つながりの研究領域	各部会（小体連）の研究について 学体研での授業発表の有無	
				各地区の研究・領域	授業発表
5年度	各部会	串間・日南地区	『ネット型』	各小体連で決定	○
6年度	全体会	高原・小林・えびの地区			×
7年度	各部会	延岡・西臼杵地区			○
8年度	全体会	西都・児湯	×		
			未定		

○ 令和6、8年度の『小林・えびの』、『西都・児湯』は、学体研において、各地区の授業発表を行うことができないが、県小体連研究収録には掲載する。

○ 学体研を開催した地区においては、翌年の九州大会で、誌上（口頭）発表を行う。例年、『地区小体連の研究』を4ページ程度にまとめたものを提出している。

※ 九州大会の発表資料は、『つながりの研究』ではないことに留意し、各地区小体連で、準備を進めておく。（3年程度を見通して、計画的に研究を進めておく）

『R4年度版:新輪番表』(R5.5.12)

○ ポスターセッション…令和5年度(東臼杵)、令和7年度(西臼杵、日南市、えびの市)

区分	小体連	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
北部	東臼杵		(県)	ポスターセッション							(県)
	日向市		県会場(全体会)	九州発表 大分							県会場(部会?)
	延岡市					県会場(部会)	九州発表				
	西臼杵					(県)ポスターセッション					
中部	宮崎市	九州発表 鹿児島						県会場(部会)	県・九州(全体会)	九州発表	
	東諸県郡									ポスターセッション	
	日南市			(県)		ポスターセッション					ポスターセッション
	串間市			県会場(部会)	九州発表 沖縄						
	西都市						県会場(全体会)	九州発表			
	児湯郡						(県)	ポスターセッション			
南部	都城地区	県会場(部会)	九州発表 長崎					ポスターセッション		県会場(全体?)	
	高原町				(県)					ポスターセッション	
	小林市				県会場(全体会)	九州発表 熊本					
	えびの市				(県)	ポスターセッション					
	派遣研修生			R3,R4派遣生ポスターセッション		R5,R6派遣生ポスターセッション		R7,R8派遣生ポスターセッション		ポスターセッション	ポスターセッション

※ 九州、全国学体研の開催により、年度によっては、輪番制に変更の可能性あり。

○令和5年度学体研:10月27日